

日本語教育実習における受講生の意識に関する調査

安藤 淑子

山梨県立女子短期大学 国文科

A Research of Students' Consciousness in Japanese Teaching Practice Class

Yoshiko ANDO

Yamanashi Women's Junior College

Keywords: teaching Japanese 日本語教育、teachers' training 教員養成、teaching practice 教壇実習、classroom observation 観察、consciousness 意識

1. 「日本語教育実習」の概要

日本語教員養成課程では、「日本語教育実習」(3単位)を実施している。この科目は1年次に「日本語教育概論」「日本語教育方法論」の単位を取得した学生10名以内で構成され、カリキュラムは講義・見学・実習の三つの柱から成る。

見学については、授業時間外に受講生が指定の日本語教育機関(日本語学校、ボランティア日本語教室、県の海外技術者研修日本語研修クラス)へ出向いて行う。実習に関しては次節で詳述する。クラスの流れは以下(図1)の通りである。

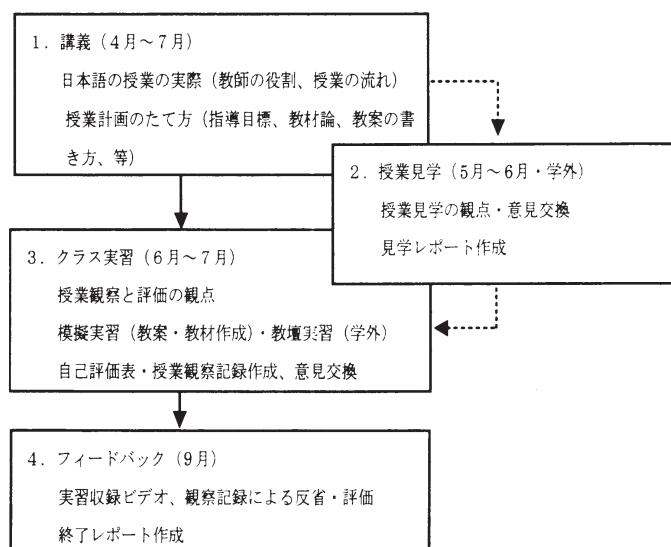


図1. 「日本語教育実習」クラスの流れ

2. 実習の概要

本講座では、受講生が各々模擬実習2回、教壇

実習1回を実施する。

模擬実習は、教室内で受講生がそれぞれ学習者役と教師役に別れて行う。テキストは『新日本語の基礎Ⅰ』を用い、3～4名を一グループとする。授業時間は各グループ20分前後とし、この時間内で実施可能な教案を作成する。

模擬実習の1回目は1課から10課までの任意の課の「導入」及び「練習」を行う。2回目は11課から25課までの任意の課の「練習」と「タスク」を実施する。実施内容は、当該課全体のクラスを仮定した上での1部分であることを前提とする。学習者役の受講生は、日本語初級者として教師役の受講生に対し受け答え及び質問を行う(教師役の受講生は、学習者役の受講生に「外国人名」を準備する)。各実習は最低2週間以上の準備期間を置いている。

教壇実習は、山梨県国際交流センターに在住の県海外技術研修員に対して行っている。技術研修員は、毎年5月末に来日し翌年3月に帰国するまで日本で各自の専門に応じた研修を行うが、6月からの1ヶ月間は集中日本語研修の期間となっている。本校の実習は、日本語研修の終了週から終了後3週にわたって土曜日に実施し、研修員の日本語補講及び会話・応用練習という位置付けがなされている。正式な日本語研修は『新日本語の基礎』Ⅰ及びⅡをテキストとして使用しているが、本学の実習ではテキストを用いない。受講生は研修員が日本で直面すると想定されるコミュニケー

ション場面を中心に表現・語彙を選定し、タスク活動を中心とした授業計画を立てる。

教壇実習は、毎回土曜日の午後1:30～3:00の間に休憩10分をはさんで行い、前半部、後半部をそれぞれ受講生2名が担当する。教室は国際交流センター研修室を使用し、教材は全て本学より持参した。実習はビデオ及び写真撮影によって記録し、教壇実習担当者以外の受講生は観察者として教室に入る。なお、教壇実習に先立ち各回の担当者は、教師立会いのもとで模擬授業を行っている。

模擬実習、教壇実習のいずれにおいても、毎回授業実施者は教案及び自己評価表(資料1)を、その他の受講生は観察記録(資料2)を提出する。各実習終了後、実施者は授業に関する反省点等を、学生役の観察者は気づいた点を述べ、ディスカッションを行う。最後に教師が全体の反省点、留意点を指摘し総括する。

なお、実習実施者へのフィードバックとして、観察記録をコピーし配布した。また、教壇実習に関しては収録したビデオを視聴し、ディスカッションを行った。

3. 意識調査と分析

3-1. 自己評価

受講生の意識調査資料として、前出の自己評価表(模擬実習2回、教壇実習1回)、観察記録(模擬実習、教壇実習)を用いた。自己評価の評点尺

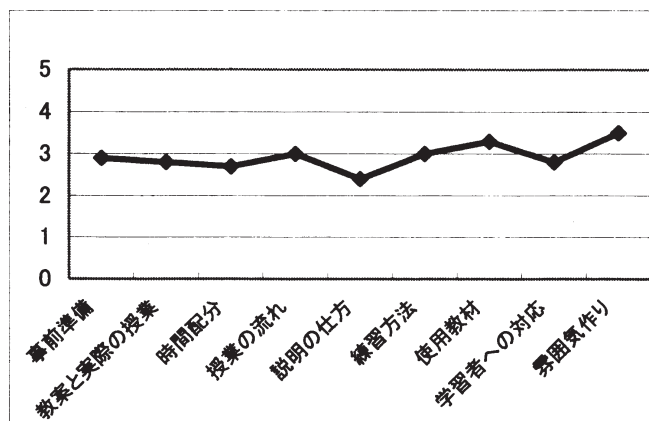


図2. 自己評価評点平均値

度は1～5、観察記録は自由記述部分を用いた。

自己評価の評点平均値は、図2のようであった。概ねどの項目の評点も3点を前後し突出して良い項目、悪い項目は見当たらない。しかし、実際個別の評価表では、受講者の多くが高い評価(5,4)を示した項目と低い評価(1,2)を示した項目には特徴が見られた。

学習者の多くが高得点を与えた項目は図3のようであった。グラフ中の「1回」、「2回」というのは、模擬実習の1回目、2回目を指し、「実習」というのは、実際に外国人学習者を対象に行った教壇実習のことである。

合計人数で高評価の多かった項目は、「使用教材」及び「雰囲気作り」であり、次いで「事前準備」、「教案と実際の授業」、「学習者への対応」の

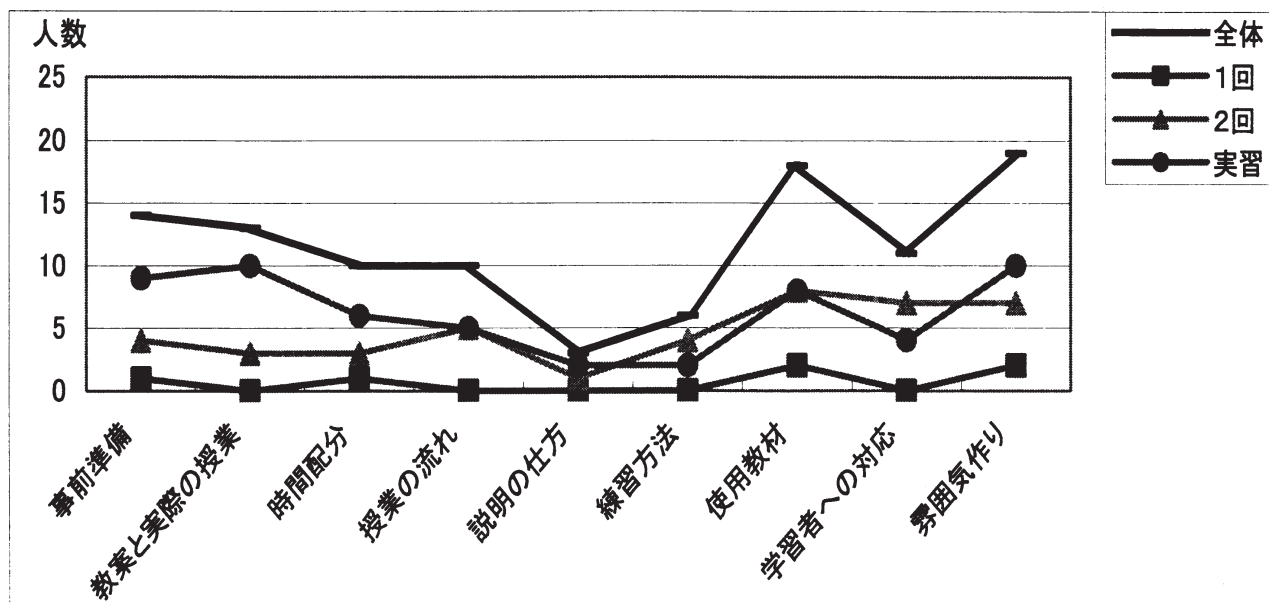


図3. 高評価項目

順である。

「使用教材」に関しては、受講生は総じて市販の教材よりも多く自作教材を使用する傾向があり、写真・ちらしなどの資料の収集と教材作成にかなりの時間を費やしている。こうした作成に関わる工夫に対し、受講生は肯定的な自己評価を行ったものと思われる。既成の教材を使用しないことの是非は別にして、クラス全体を自分達の手で形作りたいという意欲は評価すべきであろう。

「雰囲気作り」に関しては「笑顔と優しさ」を十全に発揮し、学習者をリラックスさせたと感じているようである。実際、学習者と年齢的に近く、さらに女性ということでクラスはいずれも和やかな雰囲気であったが、現実には年齢・職業・目的が様々なクラスで、笑顔のみが肯定的な雰囲気を醸成するとは限らないことも事実である。もちろん、学習者の気持ちを第一に考えるという姿勢は評価すべきである。

次に、「事前準備」、「教案と実際の授業」の項目に関しては、主として本番の教壇実習における評価が高く合計人数を押し上げていることがわかる。このことは、準備・計画・練習という事前の取組みに対する前向きな努力を、受講生自らが高く評価した結果であると考えられる。

評価は概ね1回目、2回目、教壇実習と、次第に上がっていく傾向が見られる。ただし、「練習方法」、及び「学習者への対応」に関しては、模擬実習の2回目の人数が教壇実習の人数を上回っている。これは、模擬実習が同一状況での第2回

目の試行であったのに対し、教壇実習は初めての経験であり、且つ、外国人学習者を前にするという緊張を強いる状況下で思ったような授業ができなかったという印象があったためと考えられる。

一方、低評価項目のグラフ(図4)を見ると、「説明の仕方」が最も受講生の評価の低かった項目である。この項目は、模擬実習の1回目、2回目、及び教壇実習の全てを通じて評価が低い。教材作成や事前準備など、短期的な努力がある程度改善に反映される項目とは異なり、学習者への説明は、(1)教師が説明事項を十分に理解している、(2)学習者の既習語彙・文型表現によって解説できる、(3)簡潔に要点を述べる、という3点が満たされていることが必要であり、実習期間内において目に見える改善は望むべくもない。また、学習者からその場で質問され回答を要求されるケースもあり、教師経験のほとんどない受講生には負担になったものと考えられる。

この点に関して、自己評価表に記載された受講生のコメントを見る限り、失敗の原因が(1)内容に関する自らの知識の不足、(2)説明のための言葉の選択の失敗、(3)極度の緊張、のいずれに因るものであるかを明確に認識しているとは言えない。全体に「どうしてよいかわからなかった」「説明不足だった」「うまくできなかった」というようなネガティブな結果を述べる記述が目立ち、「重要なことにしぼって」「簡単でわかりやすい言葉で」「丁寧に」すべきだったというような、具体性の欠けた内省レベルに留まっている。

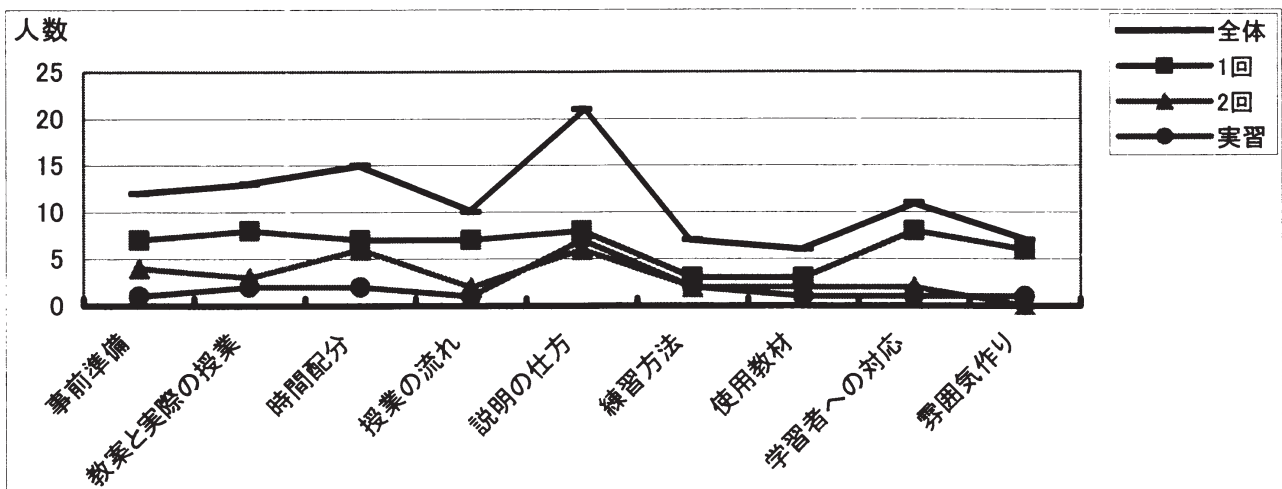


図4. 低評価項目

○「説明の仕方」に関するコメント（自己評価）

- ・何をどのようにどんな言い方でということが曖昧だったのでうまくできなかった
- ・どうやってうまく説明すればよいかわからなかった
- ・説明をはじめから文単位で行ってしまったが、単語から説明すればよかった。質問に対する説明もうまいかず、説明の言葉ももっとわかりやすくできればよかった。
- ・説明不足の点があった
- ・言葉を選ぼうとすることに集中して途中で止まってしまったり話していて言い回しがおかしいと感ずることがあった
- ・重要なことにしぼって説明を短くできればよかった
- ・大まかな説明はできたけれどももう少し丁寧に説明したかった
- ・できるだけ簡単で分かりやすい言葉での説明を心がけたがうまくいかなかった
- ・字だけの説明や逆に言葉での説明が多かった
- ・質問に的確に答えられなかった
- ・大丈夫だと思っていた説明が実際には学習者にうまく伝えられていなかった
- ・予想外の言葉に対しての説明や何をするかの説明で言葉が上手く見つからずわかりにくい説明になってしまった
- ・ただ説明するだけで学習者の方に何も聞かず進めてしまった
- ・やっているうちに説明したほうがいいのかどうか悩んだところがあった
- ・学習者同士で教えあっていた

「説明」はクラス活動において教師中心・主導の時間帯であり、緊張と同時に、コメントにあるように聞いている学習者が理解を示さないことへの「教師」としての焦燥とが相まって自らの力量に対する落胆が顕著に現れる項目である。他の項目では、概ね評価が改善している教壇実習において、「説明の仕方」の評価が模擬実習の第2回目より低く、第1回目ともほとんど差がないという特徴を示すのは、この点に起因しているのであろう。

3-2. 観察記録

次に、授業を観察した受講生の観察記録に見

られるコメントを種別に分類し、かつ肯定的なコメントと批判的なコメントに分類したグラフが図5である。コメントは自由記述であるが、それまでに繰り返し行われた自己評価の項目及び観察記録の評価項目を反映している。したがって、コメントの多くは漠然とした印象というより、むしろ多くの場合、具体的な内容に関する肯定的・批判的な指摘がなされている。また、観察記録の上面（資料2参照）は、授業実施者に対する項目評価になっているが、評価を行った後さらに自由記述として書き加えた部分は、全体的な総括と言うよりも、観察者にとって極めて関心が深く、したがって印象に残った事柄であると考えられる。

観察者のコメントは具体的なものが多く、例えば、板書方法（文字の大きさ、色、ふりがな）、話し方（声の大きさ、スピード）、教師の立ち位置（掲示物・他教師との位置関係）、教師間の連携、教材添付の方法、語彙、教師の視線など多岐にわたっている。また、学習者の立場に立ったコメント（「指示をはっきり出したほうがよい」「学習者が答えた後、それについてコメントした」「活動中、学習者を回って助言していた」「わかりましたか、などと聞いていた」）が見られることも特徴的である。これは、模擬実習を通じて観察者自身が「学習者役」を演じた経験から、観察する場合の視点を学習者に置くよう自然に習慣化されたためであると考えられる。

学習者のコメントで最も多いのは「説明」、「練習方法」に関するものであり、肯定的コメントと共に批判的なコメント件数も多くなっている。ここで注目すべきは、前述したように、自己評価の中で受講生が自らの「説明の仕方」に関して述べている反省コメントが総じて概括的なものであったこととは対照的に、観察記録のコメントでは、何が問題点であったかを具体的に示している点である。このことは、受講生の多くが自分自身の体験を基礎として、極めて反省的に授業観察を行っていたことを示している。すなわち、実施者に対する批判というより、自分自身がうまくできなかった点に対する参考資料として観察の機会を十分に利用していたものと考えられる。

次に、「説明」「練習方法」に分類された観察者のコメントを、それぞれ肯定的・批判的なものに分けて挙げる。全体的に見て、批判的コメントの

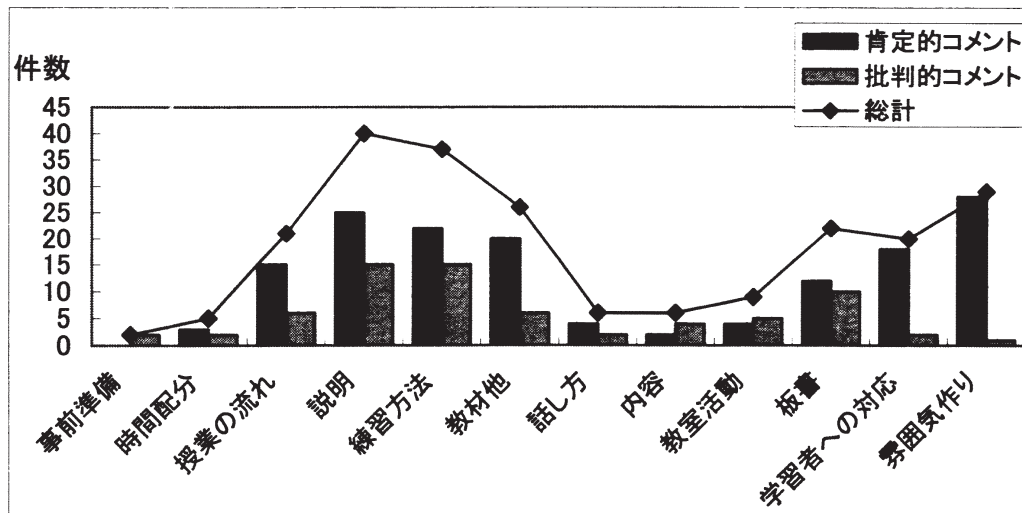


図5. 観察記録項目分類別コメント件数

方がより具体性があり、肯定的コメントはやや概括的な傾向がある。おそらくうまくいかなかった事柄というのは比較的看取りやすい反面、うまくいっている点は、何がそうしたスムーズな流れを作り出しているのか気づきにくいからであると思われる。もちろん受講生の経験不足からくる不十分な点が多々見られたことも事実である。

○「説明」に関する批判的コメント（観察記録）

- ・例文ははっきり言った方がよい
- ・「文型」という言葉がわからないかもしれない
- ・なぜ30分を半というのか説明した方がよかった
- ・な形容詞の説明が少し曖昧になっていたような気がする
- ・質問するときに学習者が何を答えたらよいかわかるような説明を加えてほしい
- ・どれくらいの単語のレベルを使うのか、文型によって言い方が複数あったりして教師の言い方が難しいと思った
- ・練習を丁寧体でやるのか自然体でやるのか言った方がよかったと思う
- ・何も説明しないで質問を自己紹介の中に取り入れていたので、説明が必要
- ・英語の単語に翻訳したのが適切な訳だったかどうか
- ・説明するとき口だけでなく板書したほうがよい

○「説明」に関する肯定的コメント（観察記録）

- ・説明の際動作を加えていたのがわかりやすかった
- ・教え方がゆっくりでわかりやすかった
- ・全体にわかりやすくはきはきした説明でよかった
- ・大事なところを強調していてわかりやすかった
- ・先生が例を言うのがよかった
- ・実際にものを見せているところがいい
- ・説明で学習者がわからないところを何回も言っていた

○「練習方法」に関する批判的コメント（観察記録）

- ・復唱するとき単語を言うのが文を言うのかとまどった
- ・一緒に言うときに「はい」などと言ってもらえると揃って言えるので練習しやすいと思う
- ・一緒に言ってくださいだけでは、単語を言うのか文を言うのかわからない
- ・練習する際に、どこまで言わなければならないかはっきりしなかった
- ・一回だけの練習ではわからないので繰り返した方がよい
- ・タスクのときほとんど先生に質問するという形だったのでその時間をもっと短縮するとよい
- ・絵を描いた紙を黒板に貼ると順番がわかりやすかったと思う
- ・「どこ」「どこにいます」「どこにいるの」など複数言い方があるものが答えにくい
- ・丁寧体と自然体を混ぜたゲームの方がよかった

のでは

- ・「～に行きませんか、といわれたら何と答えますか」の解答は？
- ・誘いの表現を聞いていたけれど、どういう場面でなのかいなければ答えようがないと思う
- ・会話は教師がお手本を見せたほうがやり易いと思った
- ・クイズの内容がよくわからなかった
- ・学習者が声を出す時間がもう少しあればよかった
- ・プリントを読む前に、それぞれの役割をはっきりしておいた方がよかった

○「練習方法」に関する肯定的コメント(観察記録)

- ・質問するときに手を出して促していたので話しやすかった
- ・一回言うだけでなく全員に繰り返し言わせていたのがよい
- ・何度も復習してくれたのでわかりやすいと思う
- ・学習者の国についてやるので親しみが湧いてよかった
- ・タスクが複数あったのが良かった
- ・一人一人に言わせるのは良かった
- ・言った後先生が繰り返してくれるのが良かった
- ・前に教わった言葉を使わせるアイデアがよかった
- ・教科書を使って復習するのは効率がよいと思う
- ・単語をいっぱい使って会話文を作ったのがよかった
- ・作業をする練習だと学習者が飽きなくてよい
- ・プリントに書いたものを実際に発表してもらったのがよかった

以上見てきたように、授業観察は受講生にとって実習の実施と双方向的な関連を持っており、結果的に自らの教壇実習に対する冷静な内省の機会になっている。

また、受講生は授業実施上の問題点を把握するという点に関しては一定のレベルに到達している。こうした把握を実践に生かすためには、さらに経験を繰り返すことが必要であるが、いずれにしても実践の機会が限られている日本語教育実習の科目においては、授業観察のための視点を身に付けた時点で、その大方の目標を達したと言えるだろう。

4. 今後の課題

今回の受講生の意欲と努力は、評価に値するものであった。しかし、受講生自身が自覚しているように、日本語を教えるための「知識」の不足という点が、現時点における受講生の課題である。

教壇実習はタスク及び会話中心の授業であり、新しい文法を導入するような機会はなかったが、実際の日本語教育の現場では、どのような教授法を用いるにしても、日本語に関する知識を導入することが不可欠である。知識を過度に偏重することはもちろん望ましいことではない、同時に、教育内容に関して十分な知識を基に授業を行うことは、学習者が期待する基本的な教師像であることも事実である。

今回は、実際の授業見学で日本語学校の協力を得ることができた。職業としての日本語教師の授業の実際を見ることは、受講生自身得るところが多かったと述べている^注。受講生が実習を行う回数は、学期の授業時間数によって物理的に制限されてしまうが、学外の見学に関しては、クラス授業に触れる機会をできるだけ多く提供したいと考えている。

また、こうした見学を通して、日本語教育機関とは何か、山梨県における外国人学生(住民)とはどのような人達なのかを体験的に知り、以降交流が継続されることがあれば、「日本語教育実習」という、比較的外部との接触の多いクラスを受講したことの一つの成果となるだろう。

将来的に、受講した学生達の何名かは、山梨県の日本語教育に関わりを持つようになると思われる。また、現実にもそのようなケースも見られるようである。日本語を教える立場になった時には、実習における経験と仕事としての現場との差異を認識しさらに自己研鑽を深めることを願っている。またこうした卒業生と在校生の間で、日本語教育に関する意見交換を行いたいと考えている。

注：見学参加者は、毎回必ず見学に関するレポートを提出することになっている。その際、以下のような項目でレポートを作成するよう指示した。

1. 日時

- | | |
|--------------|----------------------------|
| 2. 場所 | 6. 気づいた点（授業内容・学習者の反応
他） |
| 3. 担当者 | 7. 担当者への質問事項 |
| 4. 学習者の人数・国籍 | |
| 5. 授業の流れ | |

資料 1. 自己評価表

担当者_____

0. 実習日時 () 年 () 月 () 日

1. 事前準備

(理由)

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

2. 教案と実際の授業

(理由)

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

3. 時間配分

(理由)

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

4. 授業の流れ

(理由)

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

5. 説明の仕方

(理由)

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

6. 練習方法

(理由)

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

7. 使用教材

(理由)

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

8. 学習者への対応

(理由)

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

9. 雰囲気作り

(理由)

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

10. その他

観察者 _____

①実習日時：() 年 () 月 () 日 () 曜日 : ~ :

②担当者：()

③学習項目：()

④学習者 () 名

<コメント>